



C コマンド

この章では、コマンド名が C で始まる Cisco Nexus 1000V コマンドについて説明します。

cache size

NetFlow フロー モニタのキャッシュ サイズを指定するには、**cache size** コマンドを使用します。フロー モニタのキャッシュ サイズを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cache size *value*

no cache size *value*

シンタックスの説明	<i>value</i>	サイズをエントリ数で指定します。指定できる範囲は 256 ~ 16384 エントリです。
デフォルト	4096 エントリ	
コマンド モード	Netflow モニタ コンフィギュレーション (config-flow-monitor)	
サポートされるユーザの役割	network-admin	
コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	メモリおよびパフォーマンスに対する NetFlow フロー モニタ キャッシュの影響を制限するには、 cache-size コマンドを使用します。	
例	次に、MonitorTest という名前の NetFlow フロー モニタにキャッシュ サイズを設定した後、設定を表示する例を示します。	

```

n1000v# config t
n1000v(config)# flow monitor MonitorTest
n1000v(config-flow-monitor)# cache size 15000
n1000v(config-flow-monitor)# show flow monitor MonitorTestFlow
Monitor monitorstest:
  Use count: 0
  Inactive timeout: 600
  Active timeout: 1800
  Cache Size: 15000
n1000v(config-flow-monitor)#

```

次に、フロー モニタからキャッシュ サイズを削除する例を示します。

```

n1000v# config t
n1000v(config)# flow monitor MonitorTest
n1000v(config-flow-monitor)# no cache size
n1000v(config-flow-monitor)# show flow monitor MonitorTestFlow
n1000v(config-flow-monitor)#
Monitor monitorstest:
  Use count: 0
  Inactive timeout: 600
  Active timeout: 1800
  Cache Size: 4096
n1000v(config-flow-monitor)#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show flow monitor	フロー モニタのキャッシュ モジュールに関する情報を表示します。
flow monitor	フロー モニタを作成します。
timeout	キャッシュのエージング エントリに対するエージング タイマーとその値を指定します。
record	フロー レコードをフロー モニタに追加します。
exporter	フロー エクスポートをフロー モニタに追加します。

capability l3control

ポートプロファイルのレイヤ 3 機能を設定するには、**capability** コマンドを使用します。ポートプロファイルから機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

capability l3control

no capability l3control

シンタックスの説明	l3control	ポートプロファイルを次のレイヤ 3 通信のどちらかで使用するよう設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • VSM と VEM の間のレイヤ 3 通信に使用される管理インターフェイス。 • NetFlow ERSPAN トラフィックの伝送。
------------------	------------------	--

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	ポートプロファイル コンフィギュレーション (config-port-prof)
----------------	--

サポートされるユーザの役割	network-admin
----------------------	---------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	ポートプロファイルをアップリンクとして指定するための capability uplink コマンドが導入されました。
	4.0(4)SV1(2)	capability uplink コマンドが削除されました。アップリンクとして使用されるポートプロファイルは、代わりに「type Ethernet」として指定するようになっています。 capability l3control コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	レイヤ 3 制御用のポートプロファイルを設定する場合は、最初に VSM ドメインに対する svs mode コマンドを使用して、トランスポートモードをレイヤ 3 に設定する必要があります。
-------------------	---

例	次に、ポートプロファイルをレイヤ 3 通信で使用するよう設定する例を示します。
----------	---

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile testprofile
n1000v(config-port-prof)# capability l3control
n1000v(config-port-prof)#
```

次に、ポートプロファイルからレイヤ 3 の設定を削除する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile testprofile
n1000v(config-port-prof)# no capability l3control
```

```
n1000v(config-port-prof)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show port-profile name <i>[name]</i>	ポート プロファイルの設定を表示します。
port-profile name	ポート プロファイルを作成および設定するためにポート プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。

capability iscsi-multipath

iSCSI マルチパス プロトコルでポート プロファイルを使用するよう設定するには、**capability iscsi-multipath** コマンドを使用します。ポート プロファイルから機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

capability iscsi-multipath

no capability iscsi-multipath

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード ポート プロファイル コンフィギュレーション (config-port-prof)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(2)	capability iscsi multipath コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン iSCSI マルチパス用にポート プロファイルを設定する場合は、最初にスイッチポート モードでポート プロファイルを設定する必要があります。

例 次に、iSCSI マルチパス プロトコルでポート プロファイルを使用するよう設定する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile testprofile
n1000v(config-port-prof)# switchport mode access
n1000v(config-port-prof)# capability iscsi-multipath
n1000v(config-port-prof)#
```

次に、ポート プロファイルから iSCSI マルチパスの設定を削除する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile testprofile
n1000v(config-port-prof)# no capability iscsi-multipath
n1000v(config-port-prof)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show port-profile name <i>[name]</i>	ポート プロファイルの設定を表示します。
port-profile name	ポート プロファイルを作成および設定するためにポート プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。

cd

現在作業しているディレクトリから別のディレクトリに変更するには、**cd** コマンドを使用します。

```
cd [filesystem:[//directory] | directory]
```

シンタックスの説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前を指定します。有効なファイル システムは、 bootflash と volatile です。
<i>//directory</i>	(任意) ディレクトリの名前を指定します。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

bootflash

コマンド モード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin

リリース

変更内容

4.0(4)SV1(1)

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

アクティブなスーパーバイザ モジュール上のディレクトリにだけ変更できます。

現在作業しているディレクトリの名前を確認するには、現在の作業ディレクトリ (**pwd**) コマンドを使用します。

例

次に、現在のファイル システム上の別のディレクトリに変更する例を示します。

```
switch# cd my-scripts
```

次に、現在作業しているファイル システムから別のファイル システムに変更する例を示します。

```
switch# cd volatile:
```

次に、デフォルトのディレクトリである **bootflash** に戻る例を示します。

```
switch# cd
```

関連コマンド

コマンド

説明

pwd

現在作業しているディレクトリの名前を表示します。

cdp advertise

アドバタイズする CDP バージョンを指定するには、**cdp advertise** コマンドを使用します。CDP のアドバタイズ設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp advertise {v1 | v2}

no cdp advertise [v1 | v2]

シンタックスの説明

v1	CDP バージョン 1 を指定します。
v2	CDP バージョン 2 を指定します。

デフォルト

CDP バージョン 2

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、アドバタイズするバージョンとして CDP バージョン 1 を設定する例を示します。

```
switch(config)# cdp advertise v1
```

次に、アドバタイズする設定から CDP バージョン 1 を削除する例を示します。

```
switch(config)# no cdp advertise v1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp global	CDP の設定を表示します。

cdp enable (global)

Cisco Discovery Protocol (CDP) をすべてのインターフェイスとポートチャネルでグローバルにイネーブルにするには、**cdp enable** コマンドを使用します。CDP をグローバルにディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp enable

no cdp enable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト すべてのインターフェイスとポートチャネルでイネーブル

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン CDP は、物理インターフェイスとポートチャネルにだけ設定できます。

例 次に、CDP をグローバルにイネーブルにしてから CDP の設定を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# cdp enable
n1000v(config)# show cdp global
Global CDP information:
  CDP enabled globally
  Refresh time is 60 seconds
  Hold time is 180 seconds
  CDPv2 advertisements is enabled
  DeviceID TLV in System-Name(Default) Format
```

次に、CDP をグローバルにディセーブルにしてから CDP の設定を表示する例を示します。

```
switch(config)# no cdp enable
n1000v# show cdp global
Global CDP information:
  CDP disabled globally
  Refresh time is 60 seconds
  Hold time is 180 seconds
  CDPv2 advertisements is enabled
  DeviceID TLV in System-Name(Default) Format
n1000v(config)#
```

■ cdp enable (global)

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp global	CDP の設定を表示します。
cdp enable (インターフェイスまたはポートチャンネル)	特定のインターフェイスまたはポートチャンネルで CDP をイネーブルにします。

cdp enable (interface or port channel)

Cisco Discovery Protocol (CDP) を特定のインターフェイスまたはポート チャネルでイネーブルにするには、**cdp enable** コマンドを使用します。CDP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp enable

no cdp enable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン CDP は、物理インターフェイスとポート チャネルにだけ設定できます。

例 次に、ポート チャネル 2 で CDP をイネーブルにする例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# interface port-channel2
n1000v(config-if)# cdp enable
n1000v(config-if)#
```

次に、mgmt0 で CDP をディセーブルにする例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# interface mgmt0
n1000v(config-if)# no cdp enable
n1000v(config-if)# show cdp interface mgmt0
  mgmt0 is up
  CDP disabled on interface
  Sending CDP packets every 60 seconds
  Holdtime is 180 seconds
n1000v(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp interface	インターフェイスの CDP の設定を表示します。
show cdp neighbors	アップストリーム デバイスからユーザ デバイスを表示します。
cdp advertise	インターフェイスがアドバタイズする CDP のバージョン (CDP バージョン 1 または CDP バージョン 2) を割り当てます。
cdp format device ID	CDP にデバイス ID を割り当てます。
cdp holdtime	CDP がネイバー情報を保持する最大時間を設定します。この時間が経過するとネイバー情報は破棄されます。

cdp format device-id

CDP のデバイス ID の形式を指定するには、**cdp format device-id** コマンドを使用します。削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp format device-id {mac-address | serial-number | system-name}

no cdp format device-id {mac-address | serial-number | system-name}

シンタックスの説明

mac-address	シャーシの MAC アドレスを指定します。
serial-number	シャーシのシリアル番号を指定します。
system-name	システム名/完全修飾ドメイン名を指定します (デフォルト)。

デフォルト

システム名/完全修飾ドメイン名

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デバイス ID の形式を設定する前に、CDP をグローバルにイネーブルにする必要があります。CDP は、物理インターフェイスとポート チャネルにだけ設定できます。

例

次に、MAC アドレス形式の CDP デバイス ID を設定してから、設定を表示する例を示します。

```
switch(config)# cdp format device-id mac-address
switch(config)# show cdp global
Global CDP information:
CDP enabled globally
  Sending CDP packets every 5 seconds
  Sending a holdtime value of 10 seconds
  Sending CDPv2 advertisements is disabled
  Sending DeviceID TLV in Mac Address Format
```

次に、MAC アドレス形式の CDP デバイス ID を設定から削除する例を示します。

```
switch(config)# no cdp format device-id mac-address
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp global	CDP のグローバル コンフィギュレーション パラメータを表示します。
show cdp interface	インターフェイスの CDP の設定を表示します。
show cdp neighbors	アップストリーム デバイスからユーザ デバイスを表示します。
cdp advertise	インターフェイスがアドバタイズする CDP のバージョン (CDP バージョン 1 または CDP バージョン 2) を割り当てます。
cdp enable interface	特定のインターフェイスまたはポート チャネルで CDP をイネーブルにします。
cdp holdtime	CDP がネイバー情報を保持する最大時間を設定します。この時間が経過するとネイバー情報は破棄されます。

cdp holdtime

CDP がネイバー情報を保持する最大時間を設定するには、**cdp holdtime** コマンドを使用します。この時間が経過するとネイバー情報は破棄されます。CDP のホールドタイム設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp holdtime *seconds*

no cdp holdtime *seconds*

シンタックスの説明

seconds 指定できる範囲は 10 ~ 255 秒です。

デフォルト

180 秒

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

デバイス ID の形式を設定する前に、CDP をグローバルにイネーブルにする必要があります。CDP は、物理インターフェイスとポート チャネルにだけ設定できます。

例

次に、CDP のホールドタイムを 10 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# cdp holdtime 10
```

次に、CDP のホールドタイム設定を削除する例を示します。

```
switch(config)# no cdp holdtime 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp global	CDP のグローバル コンフィギュレーション パラメータを表示します。
show cdp neighbors	ユーザ デバイスからアップストリーム デバイスを表示します。

cdp timer

ネイバーにアドバタイズメントを送信するための CDP のリフレッシュ時間を設定するには、**cdp timer** コマンドを使用します。CDP のタイマー設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp timer *seconds*

no cdp timer *seconds*

シンタックスの説明

seconds 指定できる範囲は 5 ~ 254 秒です。

デフォルト

60 秒

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、CDP のタイマーを 10 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# cdp timer 10
```

次に、CDP のタイマー設定を削除する例を示します。

```
switch(config)# no cdp timer 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp global	CDP のグローバル コンフィギュレーション パラメータを表示します。
show cdp neighbors	ユーザ デバイスからアップストリーム デバイスを表示します。

channel-group auto (port profile)

ポート プロファイルに属するすべてのインターフェイスに対するチャンネル グループを作成および定義するには、**channel-group auto** コマンドを使用します。チャンネル グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
channel-group auto [mode channel_mode] [sub-group {cdp | manual}] [mac-pinning]
```

```
no channel-group
```

シンタックスの説明

mode	(任意) チャネリング モードを指定します。
<i>channel_mode</i>	<ul style="list-style-type: none"> • on • active (LACP を使用) • passive (LACP を使用)
sub-group	(任意) ポート プロファイルが複数のアップストリーム スイッチに接続する場合にトラフィック フローを管理するためのサブグループを作成することを指定します。この機能は、仮想ポート チャンネル ホスト モード (vPC-HM) とも呼ばれます。
cdp	Cisco Discovery Protocol (CDP) を使用してサブグループを作成することを指定します。
manual	手動でサブグループを作成することを指定します。
mac-pinning	(任意) ポート チャンネルをサポートしないアップストリーム スイッチに VEM を接続することを指定します。ポート チャンネルごとのサブグループの最大数は 32 なので、最大で 32 のイーサネット ポート メンバーを割り当てることができます。

デフォルト

なし

コマンド モード

ポート プロファイル コンフィギュレーション (config-port-prof)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。
4.0(4)SV1(2)	サブグループの手動作成および mac-pinning がサポートされました。

使用上のガイドライン

channel-group auto コマンドは、同じモジュールに属するすべてのインターフェイスに対して一意のポート チャンネルを作成します。ポート プロファイルが最初のインターフェイスに割り当てられると、チャンネル グループが自動的に割り当てられます。同じモジュールに属する追加の各インターフェイスは、同じポート チャンネルに追加されます。VMware 環境では、モジュールごとに異なるポート チャンネルが作成されます。

- vPC-HM を設定する場合は、チャンネル グループ モードを **on** に設定する必要があります。

- 複数のアップストリーム スイッチに接続するポート プロファイルに対するポート チャンネルを設定するときは、次のことに注意してください。
 - アップストリーム スイッチで CDP が設定されているかどうかを確認する必要があります。
設定されている場合は、CDP によってアップストリーム スイッチごとにサブグループが作成され、トラフィックが個別に管理されます。
設定されていない場合は、個別のスイッチのトラフィック フローを管理するために、手動でサブグループを設定する必要があります。
 - vPC-HM に対するポート チャンネルを設定していて、アップストリーム スイッチがポート チャンネルをサポートしていない場合は、MAC ピニングを使用できます。この機能は、各イーサネット メンバー ポートを一意のサブグループに自動的に割り当てます。
 - 複数のポート チャンネルが 2 つの異なるアップストリーム スイッチに接続するときに vPC-HM が設定されていない場合、Cisco Nexus 1000V の背後の VM は、ブロードキャストおよびマルチキャスト ネットワークから重複するパケットを受信します。
 - インターフェイスに vPC-HM を設定することもできます。詳細については、『Cisco Nexus 1000V Interface Configuration Guide, Release 4.0(4)SV1(2)』を参照してください。

例

次に、単一のアップストリーム スイッチに接続するポート チャンネルのポート プロファイルを設定した後、設定を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile AccessProf
n1000v(config-port-prof)# channel-group auto mode on
n1000v(config-port-prof)# show port-profile name AccessProf
port-profile AccessProf
  description: allaccess4
  status: disabled
  capability uplink: yes
  port-group: AccessProf
  config attributes:
    switchport mode access
    channel-group auto mode on
  evaluated config attributes:
    switchport mode access
    channel-group auto mode on
  assigned interfaces:
n1000v(config-port-prof)#
```

次に、ポート プロファイルからチャンネル グループ設定を削除した後、設定を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile AccessProf
n1000v(config-port-prof)# no channel-group
n1000v(config-port-prof)# show port-profile name AccessProf
port-profile AccessProf
  description: allaccess4
  status: disabled
  capability uplink: yes
  port-group: AccessProf
  config attributes:
    switchport mode access
  evaluated config attributes:
    switchport mode access
  assigned interfaces:
n1000v(config-port-prof)#
```

次に、CDP がイネーブルになっている複数のアップストリーム スイッチに接続するポート チャネルのポート プロファイルを設定した後、設定を表示する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# port-profile uplinkProf
n1000v(config-port-prof)# channel-group auto mode on sub-group cdp
n1000v(config-port-prof)# show port-profile name uplinkProf
port-profile uplinkProf
  description:
  type: vethernet
  status: disabled
  capability l3control: no
  pinning control-vlan: -
  pinning packet-vlan: -
  system vlans: none
  port-group:
  max ports: 32
  inherit:
  config attributes:
    channel-group auto mode on sub-group cdp
  evaluated config attributes:
    channel-group auto mode on sub-group cdp
  assigned interfaces:
```

関連コマンド

コマンド	説明
show port-profile name <i>profile-name</i>	ポート プロファイルの設定を表示します。
port-profile <i>profile-name</i>	ポート プロファイルを作成し、指定したポート プロファイルのグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

channel-group (interface)

ポート チャンネル グループを作成する、またはポート チャンネル グループ間でインターフェイスを移動するには、**channel-group** コマンドを使用します。インターフェイスからチャンネル グループの設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

channel-group *number* [**force**] [**mode** {**active** | **on** | **passive**}]

no channel-group [*number*]

シンタックスの説明

number	チャンネル グループの番号を指定します。設定できるポート チャンネルの最大数は 256 です。割り当てることのできるチャンネル グループ番号の範囲は 1 ~ 4096 です。
force	一部のパラメータに互換性がなくても、強制的にインターフェイスをチャンネル グループに加えます。互換性パラメータおよび強制できるパラメータについては、下記の「使用上のガイドライン」を参照してください。
mode	インターフェイスのポート チャンネル モードを指定します。
on	これがデフォルト チャンネル モードです。 LACP を実行していないすべてのポート チャンネルは、このモードになります。LACP をイネーブルにする前に、チャンネル モードを active または passive に変更しようとする、エラー メッセージが返されます。 LACP をグローバルにイネーブルにしてから、チャンネル モードを active または passive に設定することで各チャンネルの LACP をイネーブルにします。on モードのインターフェイスは、LACP パケットの送信、および LACP パケットへの応答は行いません。LACP によって on 状態のインターフェイスとのネゴシエーションが試行されても、LACP パケットは受信されず、そのインターフェイスとのリンクは個別リンクとなります。したがって、チャンネル グループへは参加しません。
active	このコマンドを使用すると、ユーザが Link Aggregation Control Protocol (LACP) をイネーブルにしたときに、指定のインターフェイスの LACP がイネーブルになります。インターフェイスは、アクティブなネゴシエーション状態となります。この状態のポートは、LACP パケットを送信することにより、他のポートとのネゴシエーションを開始します。
passive	このコマンドを使用すると、LACP をイネーブルにしたときに、LACP デバイスが検出された場合にだけ LACP がイネーブルになります。インターフェイスは、パッシブなネゴシエーション状態になります。この状態のポートは、受信した LACP パケットには応答しますが、LACP ネゴシエーションは開始しません。

デフォルト

デフォルト モードは **on** です。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

on チャネル モードのポート チャネルは、モードが未設定のポート チャネルであり、最大 8 ポートを集約できます。LACP は実行しません。

既存のポート チャネルが **LACP** を実行していない場合、ポート チャネルまたはそのインターフェイスのモードは変更できません。変更しようとする、チャンネル モードは **on** のままになり、エラーメッセージが生成されます。

ポート チャネルから最後の物理インターフェイスを削除しても、ポート チャネルは削除されません。ポート チャネルを完全に削除するには、**port-channel** コマンドの **no** 形式を使用します。

インターフェイスがポート チャネルに参加する場合、次の属性が削除されて、ポート チャネルの属性に置き換えられます。

- 帯域幅
- 遅延
- Extended Authentication Protocol (EAP) over UDP
- VRF
- IP アドレス
- MAC アドレス
- スパニング ツリー プロトコル
- NAC
- サービス ポリシー
- QoS (Quality of Service)
- ACL

次の属性は、インターフェイスがポート チャネルに参加したり、ポート チャネルから脱退した場合も変化しません。

- ビーコン
- 説明
- CDP
- LACP ポート プライオリティ
- デバウンス
- UDLD
- MDIX
- レート モード
- シャットダウン
- SNMP トラップ

物理インターフェイスをチャンネル グループに割り当てる前に、ポート チャネル インターフェイスを作成する必要はありません。チャンネル グループが最初の物理インターフェイスを取得するときに、ポート チャネル インターフェイスがまだ作成されていない場合は自動的に作成されます。

例

次に、LACP チャンネル グループ 5 にアクティブ モードのインターフェイスを追加する例を示します。

```
switch(config-if)# channel-group 5 mode active
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface port-channel	指定のポート チャンネル インターフェイスのトラフィックに関する情報を表示します。
show port-channel summary	ポート チャンネルに関する情報を表示します。
feature lacp	LACP 機能をグローバルにイネーブルにします。
show lacp port-channel	LACP の情報を表示します。
show port-channel compatibility-parameters	Cisco Nexus 1000V が使用する互換性チェックのリストを表示します。

check logflash

compactFlash をチェックするには、**check logflash** コマンドを使用します。

check logflash [bad-blocks]

シンタックスの説明	bad-blocks	(任意) compactFlash の不良ブロックを検出します。
-----------	-------------------	----------------------------------

デフォルト	なし
-------	----

コマンドモード	任意
---------	----

サポートされるユーザの役割	network-admin
---------------	---------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例 次に、compactFlash をチェックする例を示します。

```
switch# check logflash
```

class (policy map type qos)

既存の QoS (Quality of Service) クラスをポリシー マップに追加するには、**class** コマンドを使用します。ポリシー マップから QoS クラスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
class [type qos] {class-map-name | class-default} [insert-before [type qos]
before-class-map-name]
```

```
no class {class-map-name | class-default}
```

シンタックスの説明

type qos	(任意) クラス タイプとして QoS を指定します。QoS がデフォルトのクラス タイプです。
<i>class-map-name</i>	指定した既存クラスの名前をポリシー マップに追加します。
class-default	class-default をポリシー マップに追加します。 class-default は、他のクラスに分類されないすべてのトラフィックに一致します。
insert-before <i>before-class-map-name</i>	(任意) 後続のクラス マップを示すことで、ポリシー内でのこのクラスの順序を指定します。指定しないと、このクラスはポリシー内のクラスのリストの最後に配置されます。トラフィック タイプと一致する最初のクラスのポリシー アクションが実行されます。

デフォルト

type qos

デフォルトでは、ポリシー マップの最後にある新しいクラス マップを参照します。

class-default という名前のクラスは、他のクラスに分類されないすべてのトラフィックに一致します。

コマンド モード

ポリシー マップ コンフィギュレーション (**config-pmap**)

サポートされるユーザの役割

network-admin

リリース

変更内容

4.0(4)SV1(1)

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

トラフィック タイプと一致する最初のクラスのポリシー アクションが実行されます。

class-default という名前のクラスは、他のクラスに分類されないすべてのトラフィックに一致します。

例

次に、クラス マップをポリシー マップの最後に追加する例を示します。

```
switch(config)# policy-map my_policy1
switch(config-pmap)# class traffic_class2
switch(config-pmap-c-qos)#
```


次に、クラス マップをポリシー マップ内の既存のクラス マップの前に挿入する例を示します。

```
switch(config)# policy-map my_policy1
switch(config-pmap-qos)# class insert-before traffic_class2 traffic_class1
switch(config-pmap-c-qos)#
```

次に、class-default クラス マップをポリシー マップに追加する例を示します。

```
switch(config)# policy-map my_policy1
switch(config-pmap-qos)# class class-default
switch(config-pmap-c-qos)#
```

次に、参照クラス マップをポリシー マップから削除する例を示します。

```
switch(config)# policy-map my_policy1
switch(config-pmap)# no class traffic_class1
switch(config-pmap)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
policy-map	ポリシー マップを作成または変更します。
set cos	CoS を QoS ポリシー マップに割り当てます。
set dscp	DSCP 値を QoS ポリシー マップ内のトラフィック クラスに割り当てます。
set precedence	QoS ポリシー マップ内の特定のトラフィック クラスに IP ヘッダーのプレシデンス値を割り当てます。
set discard-class	QoS ポリシー マップ内のトラフィック クラスに廃棄クラス値を割り当てます。
show class-map qos	クラス マップを表示します。
show policy-map	ポリシー マップと統計情報を表示します。

class-map type qos

トラフィックのクラスを定義するクラス マップを作成または修正するには、**class-map** コマンドを使用します。クラス マップを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
class-map [type qos] {match-any | match-all} class-map-name}
```

```
no class-map [type qos] {class-map-name | [match-any | match-all]}
```

シンタックスの説明

type qos	(任意) クラス マップに対してコンポーネント タイプ QoS を指定します。デフォルトでは、クラス マップ タイプは QoS です。
match-any	指定すると、このクラス マップに設定されている一致条件のいずれかとパケットが一致する場合は、このクラス マップをそのパケットに適用します。
match-all	指定すると、このクラス マップに設定されている一致条件のすべてとパケットが一致する場合は、このクラス マップをそのパケットに適用します。 match-any が指定されていない場合は、これがデフォルトのアクションになります。
<i>class-map-name</i>	クラス マップに割り当てる名前。「class-default」という名前は予約されています。

デフォルト

```
type qos
match-all
```

コマンド モード

```
グローバル コンフィギュレーション (config)
```

サポートされるユーザの役割

```
network-admin
```

リリース

変更内容

```
4.0(4)SV1(1)
```

```
このコマンドが追加されました。
```

使用上のガイドライン

クラス マップ名ではハイフン、アンダースコア、およびアルファベット文字を使用できます。

クラス マップ名は 40 文字以下です。

クラス マップ名では大文字と小文字が区別されます。

例

次に、クラス マップを作成し、指定したマップを設定するために QoS クラス マップ コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch(config)# class-map my_class1
switch(config-cmap-qos)#
```

次に、*my_class1* という名前の QoS クラス マップを削除する例を示します。

```
switch(config)# no class-map my_class1  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show class-map qos	クラス マップを表示します。
match class-map	別のクラス マップの一致条件に基づいてパケットを照合するトラフィック クラスを設定します。
match packet length	パケット長に基づいてパケットを照合するトラフィック クラスを設定します。

clear access-list counters

IP および MAC アクセス コントロール リスト (ACL) のカウンタを消去するには、**clear access-list counters** コマンドを使用します。

clear access-list counters [*access-list-name*]

シンタックスの説明

access-list-name (任意) カウンタを消去する ACL の名前です。名前は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ACL を指定する場合、名前は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

例

次に、すべての IP および MAC ACL のカウンタを消去する例を示します。

```
switch# clear access-list counters
switch#
```

次に、acl-ip-01 という名前の IP ACL のカウンタを消去する例を示します。

```
switch# clear access-list counters acl-ip-01
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear ip access-list counters	IP ACL のカウンタを消去します。
clear mac access-list counters	MAC ACL のカウンタを消去します。
show access-lists	1 つまたはすべての IP および MAC ACL に関する情報を表示します。

clear accounting log

アカウントティング ログを消去するには、**clear accounting log** コマンドを使用します。

clear accounting log

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例 次に、アカウントティング ログを消去する例を示します。
switch# **clear accounting log**

関連コマンド	コマンド	説明
	show accounting log	アカウントティング ログの内容を表示します。

clear cdp

インターフェイスの Cisco Discovery Protocol (CDP) 情報を消去するには、**clear cdp** コマンドを使用します。

```
clear cdp {counters [interface slot/port] | table [interface slot/port]}
```

シンタックスの説明

counters	すべてのインターフェイスの CDP カウンタを消去します。
interface slot/port	(任意) 指定したインターフェイスの CDP カウンタを消去します。
table	すべてのインターフェイスの CDP キャッシュを消去します。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin
network-operator

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、すべてのインターフェイスの CDP カウンタを消去する例を示します。

```
n1000V# clear cdp counters
```

次に、すべてのインターフェイスの CDP キャッシュを消去する例を示します。

```
n1000V# clear cdp table
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp all	CDP がイネーブルになっているすべてのインターフェイスを表示します。
show cdp entry	CDP データベース エントリを表示します。
show cdp global	CDP のグローバル パラメータを表示します。
show cdp interface interface-type slot-port	CDP インターフェイスのステータスを表示します。

clear cli history

CLI で入力したコマンドの履歴を消去するには、**clear cli history** コマンドを使用します。

clear cli history

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で入力したコマンドの履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

例 次に、コマンドの履歴を消去する例を示します。

```
switch# clear cli history
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show cli history	コマンドの履歴を表示します。

clear cores

コア ファイルを消去するには、**clear cores** コマンドを使用します。

clear cores [archive]

シンタックスの説明	archive	(任意) logflash ファイル システムのコア ファイルを消去します。
-----------	----------------	--

デフォルト	なし
-------	----

コマンド モード	任意
----------	----

サポートされるユーザの役割	network-admin
---------------	---------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	コア ファイルに関する情報を表示するには、 show system cores コマンドを使用します。
------------	--

例	次に、コア ファイルを消去する例を示します。
---	------------------------

```
switch# clear cores
```

次に、logflash ファイル システムのコアをクリアする例を示します。

```
switch# clear cores archive
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show system cores	コア ファイル名を表示します。
	system cores	コア ファイル名を設定します。

clear counters

インターフェイス カウンタを消去するには、**clear counters** コマンドを使用します。

clear counters [interface {all | ethernet *slot/port* | loopback *virtual-interface-number* | mgmt | port-channel *port-channel-number* | vethernet *interface-number*}]

シンタックスの説明

interface	インターフェイス カウンタを消去します。
all	すべてのインターフェイス カウンタを消去します。
ethernet <i>slot/port</i>	イーサネット インターフェイス カウンタを消去します。指定できる範囲は 1 ~ 66 です。
loopback <i>virtual-interface-number</i>	ループバック インターフェイス カウンタを消去します。指定できる範囲は 0 ~ 1023 です。
mgmt	管理インターフェイス (mgmt0) を消去します。
port-channel <i>port-channel-number</i>	ポート チャネル インターフェイスを消去します。指定できる範囲は 1 ~ 4096 です。
vethernet <i>interface-number</i>	仮想イーサネット インターフェイスを消去します。指定できる範囲は 1 ~ 1048575 です。

デフォルト

なし

コマンド モード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin
network-operator

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、イーサネット インターフェイス カウンタを消去する例を示します。

```
switch(config)# clear counters ethernet 2/1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface counters	カウンタを含む、インターフェイスのステータスを表示します。

clear debug-logfile

デバッグ ログ ファイルの内容を消去するには、**clear debug-logfile** コマンドを使用します。

clear debug-logfile *filename*

シンタックスの説明	<i>filename</i>	消去するデバッグ ログ ファイルの名前を指定します。
------------------	-----------------	----------------------------

デフォルト	なし
--------------	----

コマンド モード	任意
-----------------	----

サポートされるユーザの役割	network-admin
----------------------	---------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例 次に、デバッグ ログ ファイルを消去する例を示します。

```
switch# clear debug-logfile syslogd_debugs
```

関連コマンド	コマンド	説明
	debug logfile	デバッグ ログ ファイルを設定します。
	debug logging	デバッグのロギングをイネーブルにします。
	show debug logfile	デバッグ ログ ファイルの内容を表示します。

clear flow exporter

Flexible NetFlow フロー エクスポートの統計情報を消去するには、**clear flow exporter** コマンドを任意のコマンドモードで使用します。

```
clear flow exporter {name exporter-name | exporter-name}
```

シンタックスの説明

name	フロー エクスポートを名前指定することを示します。
<i>exporter-name</i>	既存のフロー エクスポートの名前を指定します。

コマンドのデフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

clear flow exporter コマンドを使用する前に、エクスポートを使用する Flexible NetFlow でのトラフィック モニタリングをイネーブルにしておく必要があります。

例

次に、NFC-DC-PHOENIX という名前のフロー エクスポートの統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear flow exporter name NFC-DC-PHOENIX
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear flow exporter	エクスポートの統計情報を消去します。
flow exporter	フロー エクスポートを作成します。
show flow exporter	フロー エクスポートのステータスと統計情報を表示します。

clear ip access-list counters

IP アクセス コントロール リスト (ACL) のカウンタを消去するには、**clear ip access-list counters** コマンドを使用します。

clear ip access-list counters [*access-list-name*]

シンタックスの説明

access-list-name (任意) カウンタを消去する IP ACL の名前です。名前は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ACL を名前で指定する場合、名前は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

例

次に、すべての IP ACL のカウンタを消去する例を示します。

```
switch# clear ip access-list counters
switch#
```

次に、acl-ip-101 という名前の IP ACL のカウンタを消去する例を示します。

```
switch# clear ip access-list counters acl-ip-101
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear access-list counters	IP および MAC ACL のカウンタを消去します。
clear mac access-list counters	MAC ACL のカウンタを消去します。
show access-lists	1 つまたはすべての IP および MAC ACL に関する情報を表示します。
show ip access-lists	1 つまたはすべての IP ACL に関する情報を表示します。

clear ip arp inspection statistics vlan

指定した VLAN の Dynamic ARP Inspection (DAI; ダイナミック ARP インスペクション) の統計情報を消去するには、**clear ip arp inspection statistics vlan** コマンドを使用します。

clear ip arp inspection statistics vlan *vlan-list*

シンタックスの説明	<i>vlan-list</i>	DAI の統計情報を消去できる VLAN ID の範囲は 1 ~ 4094 です。
------------------	------------------	---

デフォルト	なし
--------------	----

コマンドモード	任意
----------------	----

サポートされるユーザの役割	network-admin
----------------------	---------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(2)	このコマンドが追加されました。

例 次に、VLAN 2 の DAI の統計情報を消去する例を示します。

```
n1000v# clear ip arp inspection statistics vlan 2
n1000v#
```

次に、VLAN 5 ~ 12 の DAI の統計情報を消去する例を示します。

```
n1000v# clear ip arp inspection statistics vlan 5-12
n1000v#
```

次に、VLAN 2 と VLAN 5 ~ 12 の DAI の統計情報を消去する例を示します。

```
n1000v# clear ip arp inspection statistics vlan 2,5-12
n1000v#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ip arp inspection vlan	VLAN のリストに対する DAI をイネーブルまたはディセーブルにします。
	show ip arp inspection statistics	DAI の統計情報を表示します。

clear ip igmp interface statistics

インターフェイスの IGMP の統計情報を消去するには、**clear ip igmp interface statistics** コマンドを使用します。

clear ip igmp interface statistics [*if-type if-number*]

シンタックスの説明

<i>if-type</i>	(任意) インターフェイスのタイプを指定します。詳細については、疑問符 (?) によるオンラインヘルプ機能を使用してください。
<i>if-number</i>	(任意) インターフェイスの番号を指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin
network-operator

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、インターフェイスの IGMP の統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear ip igmp interface statistics ethernet 2/1
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ip igmp interface	IGMP インターフェイスに関する情報を表示します。

clear ip igmp snooping statistics vlan

VLAN の IGMP スヌーピング統計情報を消去するには、**clear ip igmp snooping statistics vlan** コマンドを使用します。

```
clear ip igmp snooping statistics vlan {vlan-id | all}
```

シンタックスの説明

<i>vlan-id</i>	VLAN 番号 指定できる範囲は 1 ~ 3967 および 4048 ~ 4093 です。
all	すべての VLAN に適用します。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin
network-operator

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、VLAN 1 の IGMP スヌーピング統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear ip igmp snooping statistics vlan 1
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ip igmp snooping statistics vlan	VLAN 別の IGMP スヌーピング統計情報を表示します。

clear lacp counters

Link Aggregation Control Protocol (LACP) グループに含まれるすべてのインターフェイスの統計情報を消去するには、**clear lacp counters** コマンドを使用します。

clear lacp counters [**interface port-channel** *channel-number*]

シンタックスの説明

channel-number (任意) LACP ポート チャンネル番号を指定します。指定できる値の範囲は 1 ~ 4096 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

特定のポート チャンネルのカウンタを消去する場合、指定できるポート チャンネル番号は 1 ~ 4096 です。チャンネル番号を指定しない場合は、すべての LACP ポート グループの LACP カウンタが消去されません。

集約プロトコルをイネーブルにしないでスタティック ポート チャンネル グループのカウンタを消去すると、コマンドは無視されます。

例

次に、すべての LACP カウンタを消去する例を示します。

```
switch(config)# clear lacp counters
switch(config) #
```

次に、LACP ポート チャンネル グループ 20 のすべての LACP カウンタを消去する例を示します。

```
switch(config)# clear lacp counters interface port-channel 20
switch(config) #
```

関連コマンド

コマンド	説明
show lacp counters	LACP 統計情報に関する情報を表示します。

clear license

VSM からライセンス ファイルをアンインストールする、または永続ライセンスをインストールする前に評価ライセンスをアンインストールするには、**clear license** コマンドを使用します。

clear license *filename*

シンタックスの説明	<i>filename</i>	アンインストールするライセンス ファイルを指定します。
デフォルト	なし	
コマンド モード	任意	
サポートされるユーザの役割	network-admin	

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン ライセンスが使用中の場合は、そのライセンスをアンインストールできません。ライセンス ファイルをアンインストールする前に、まずすべてのライセンスを VEM から VSM ライセンス プールに転送する必要があります。



注意

サービスの中断

VSM からライセンスをアンインストールすると、VEM 上の vEthernet インターフェイスがサービスから削除されて、仮想マシンからそのインターフェイスへのトラフィックはドロップされます。このトラフィック フローは、VEM に対するライセンスを含む新しいライセンス ファイルを追加するまで再開されません。ライセンスのアンインストールによって、vEthernet インターフェイスがシャットダウンされることを、サーバ管理者に通知することを推奨します。

例 次に、VSM から Enterprise.lic ライセンス ファイルを削除する例を示します。

```
switch# clear license Enterprise.lic
Clearing license Enterprise.lic:
SERVER this_host ANY
VENDOR cisco

Do you want to continue? (y/n) y
Clearing license ..done
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show license	ライセンス情報を表示します。
install license	VSM にライセンス ファイルをインストールします。
svs license transfer src-vem	ソース VEM から別の VEM に、または使用可能なライセンスの VSM プールに、ライセンスを転送します。

clear line

指定した vty のセッションを終了するには、**clear line** コマンドを使用します。

clear line *word*

シンタックスの説明	<i>word</i> vty 名を指定します。
-----------	--------------------------

デフォルト	なし
-------	----

コマンドモード	任意
---------	----

サポートされるユーザの役割	network-admin network-operator
---------------	-----------------------------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例 次に、指定した vty でのセッションを終了する例を示します。

```
switch(config)# clear line
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show users	アクティブなユーザセッションを表示します。

clear logging logfile

ログ ファイルからメッセージを消去するには、**clear logging logfile** コマンドを使用します。

clear logging logfile

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意

サポートされるユーザの役割 Super user

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例 次に、ログ ファイルからメッセージを消去する例を示します。

```
switch# clear logging logfile
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging logfile	ローカル ログ ファイルのログを表示します。

clear logging session

現在のロギングセッションを消去するには、**clear logging session** コマンドを使用します。

clear logging session

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意

サポートされるユーザの役割 Super user

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例 次に、現在のロギングセッションを消去する例を示します。

```
switch# clear logging session
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging session	ロギングセッションのステータスを表示します。

clear mac access-list counters

MAC アクセス コントロール リスト (ACL) のカウンタを消去するには、**clear mac access-list counters** コマンドを使用します。

clear mac access-list counters [*access-list-name*]

シンタックスの説明

access-list-name (任意) カウンタを消去する MAC ACL の名前を指定します。名前は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

特定の MAC ACL のカウンタを消去する場合、名前は 64 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。

例

次に、すべての MAC ACL のカウンタを消去する例を示します。

```
switch# clear mac access-list counters
switch#
```

次に、acl-mac-0060 という名前の MAC ACL のカウンタを消去する例を示します。

```
switch# clear mac access-list counters acl-mac-0060
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear access-list counters	IP および MAC ACL のカウンタを消去します。
clear ip access-list counters	IP ACL のカウンタを消去します。
show access-lists	1 つまたはすべての IP および MAC ACL に関する情報を表示します。
show mac access-lists	1 つまたはすべての MAC ACL に関する情報を表示します。

clear mac address-table dynamic

レイヤ 2 の MAC アドレス テーブルからダイナミック アドレス エントリを消去するには、**clear mac address-table dynamic** コマンドを使用します。

```
clear mac address-table dynamic [[address mac_addr] [vlan vlan_id] [interface {type slot/port | port-channel number}]]
```

シンタックスの説明

address <i>mac_addr</i>	(任意) テーブルから削除する MAC アドレスを指定します。 XXXX.XXXX.XXXX の形式を使用します。
vlan <i>vlan_id</i>	(任意) テーブルから MAC アドレスを削除する VLAN を指定します。有効値の範囲は、1 ~ 4094 です。
interface { <i>type slot/port</i> port-channel <i>number</i> }	(任意) インターフェイスを指定します。インターフェイスのタイプ、スロット番号とポート番号、またはポート チャネル番号を使用します。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

テーブルからすべてのダイナミック エントリを削除するには、引数を指定せずに、**clear mac address-table dynamic** コマンドを使用します。

テーブルからスタティック MAC アドレスを消去するには、**no mac address-table static** コマンドを使用します。

オプションを指定しないで **clear mac address-table dynamic** コマンドを入力すると、すべてのダイナミック アドレスが削除されます。アドレスを指定してインターフェイスを指定しないと、すべてのインターフェイスからそのアドレスが削除されます。インターフェイスを指定してアドレスを指定しないと、指定のインターフェイス上のすべてのアドレスが削除されます。

例

次に、MAC アドレス テーブルからすべてのダイナミック レイヤ 2 エントリを消去する例を示します。

```
switch(config)# clear mac address-table dynamic
switch(config) #
```

次に、ポート 2/20 の VLAN 20 の MAC アドレス テーブルからすべてのダイナミック レイヤ 2 エントリを消去する例を示します。

■ clear mac address-table dynamic

```
switch(config)# clear mac address-table dynamic vlan 20 interface ethernet 2/20  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show mac address-table	MAC アドレス テーブルに関する情報を表示します。

clear ntp statistics

Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) の統計情報を消去するには、**clear ntp statistics** コマンドを使用します。

clear ntp statistics {all-peers | io | local | memory}

シンタックスの説明

all-peers	すべての NTP ピアの統計情報を消去します。
io	IO の統計情報を消去します。
local	ローカルの統計情報を消去します。
memory	メモリの統計情報を消去します。

デフォルト

なし

コマンド モード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin
network-operator

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、すべての NTP ピアの統計情報を消去する例を示します。

```
switch(config)# clear ntp statistics all-peers
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ntp peers	NTP ピアに関する情報を表示します。

clear port-security

動的に学習されたセキュアな MAC アドレスを消去するには、**clear port-security** コマンドを使用します。

```
clear port-security {dynamic} {interface vethernet veth-number | address address} [vlan
vlan-id]
```

シンタックスの説明

dynamic	動的に学習されたセキュアな MAC アドレスを消去することを指定します。
interface vethernet veth-number	動的に学習されたセキュアな MAC アドレスを消去するインターフェイスを指定します。
address address	消去する単一の MAC アドレスを指定します。 <i>address</i> は MAC アドレスです。
vlan vlan-id	セキュアな MAC アドレスを消去する VLAN を指定します。有効な VLAN ID は 1 ~ 4096 です。

デフォルト

dynamic

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、動的に学習されたセキュアな MAC アドレスを veth1 インターフェイスから削除する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# clear port-security dynamic interface veth 1
```

次に、動的に学習されたセキュアな MAC アドレス 0019.D2D0.00AE を削除する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# clear port-security dynamic address 0019.D2D0.00AE
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug port-security	ポートセキュリティのデバッグ情報を提供します。
show port-security	ポートセキュリティに関する情報を表示します。
switchport port-security	レイヤ 2 インターフェイスでポートセキュリティをイネーブルにします。

clear qos statistics

QoS 統計情報のカウンタを消去するには、**clear qos statistics** コマンドを使用します。

```
clear qos statistics {interface [ethernet type/slot | vethernet number | port-channel
number] } [input type qos | output type qos]
```

シンタックスの説明

interface	(任意) 統計情報を消去する特定のインターフェイスを指定します。
input type qos	(任意) 入力 QoS の統計情報だけ消去します。
output type qos	(任意) 出力 QoS の統計情報だけ消去します。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin
network-operator

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスを指定しないと、すべてのインターフェイスのカウンタが消去されます。

例

次に、すべてのインターフェイスの QoS 統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear qos statistics
switch#
```

次に、veth2 のすべての入力 QoS 統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear qos statistics veth2 input type qos
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
qos statistics	QoS の統計情報をイネーブルまたはディセーブルにします。
show qos statistics	QoS の統計情報を表示します。

clear ssh hosts

Secure Shell (SSH; セキュア シェル) ホスト セッションを消去するには、**clear ssh hosts** コマンドを使用します。

clear ssh hosts

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例 次に、すべての SSH ホスト セッションを消去する例を示します。
switch# **clear ssh hosts**

関連コマンド	コマンド	説明
	ssh server enable	SSH サーバをイネーブルにします。

clear system reset-reason

デバイスのリセット原因の履歴を消去するには、**clear system reset-reason** コマンドを使用します。

clear system reset-reason

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンドモード 任意

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例 次に、リセット原因の履歴を消去する例を示します。

```
switch# clear system reset-reason
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show system reset-reason	デバイスのリセット原因の履歴を表示します。

clear user

ユーザセッションを消去するには、**clear user** コマンドを使用します。

clear user *user-id*

シンタックスの説明	<i>user-id</i>	ユーザ ID を指定します。
-----------	----------------	----------------

デフォルト	なし
-------	----

コマンドモード	任意
---------	----

サポートされるユーザの役割	network-admin
---------------	---------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	デバイスでの現在のユーザセッションを表示するには、 show users コマンドを使用します。
------------	---

例	次に、ユーザセッションを消去する例を示します。
---	-------------------------

```
switch# clear user user1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show users	ユーザセッション情報を表示します。

cli var name

端末セッションの Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) 変数を定義するには、**cli var name** コマンドを使用します。CLI 変数を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cli var name *variable-name* *variable-text*

cli no var name *variable-name*

シンタックスの説明

<i>variable-name</i>	変数名を指定します。この名前は 31 文字以下の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<i>variable-text</i>	変数のテキストを指定します。このテキストは 200 文字以下の英数字で、スペースを含むことができます。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

次の構文を使用して CLI 変数を参照できます。

\$(*variable-name*)

変数は、次のような場合に使用できます。

- コマンド スクリプト
- ファイル名

変数の定義内で、別の変数は参照できません。

定義済みの変数である **TIMESTAMP** を使用して、時刻を挿入できます。**TIMESTAMP** CLI 変数は、変更することも削除することもできません。

定義を変更するには、先に CLI 変数を削除する必要があります。

例

次に、CLI 変数を定義する例を示します。

```
switch# cli var name testinterface interface 2/3
```


次に、TIMESTAMP 変数を参照する例を示します。

```
switch# copy running-config > bootflash:run-config-$(TIMESTAMP).cnfg
```

次に、CLI 変数を削除する例を示します。

```
switch# cli no var name testinterface interface 2/3
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show cli variables</code>	CLI 変数を表示します。

clock set

手動でクロックを設定するには、**clock set** コマンドを使用します。

clock set *time day month year*

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<i>time</i>	時刻を指定します。指定する形式は <i>HH:MM:SS</i> です。
	<i>day</i>	日 (月の) を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 31 です。
	<i>month</i>	月を指定します。有効値は January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November 、および December です。
	<i>year</i>	年を指定します。指定できる範囲は 2000 ~ 2030 です。

デフォルト なし

コマンドモード 任意

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、NTP などの外部のクロック ソースとデバイスを同期できないときに使用します。

例 次に、手動でクロックを設定する例を示します。

```
switch# clock set 9:00:00 1 June 2008
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show clock	クロックの時刻を表示します。

clock summer-time

サマータイム（夏時間）オフセットを設定するには、**clock summer-time** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock summer-time *zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes*

no clock summer-time

シンタックスの説明

<i>zone-name</i>	タイムゾーンの文字列を指定します。タイムゾーン文字列は 3 文字の文字列です。
<i>start-week</i>	サマータイム オフセットを開始する週が、月の何番目の週であるかを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。
<i>start-day</i>	サマータイム オフセットを開始する曜日を指定します。有効値は Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday 、または Sunday です。
<i>start-month</i>	サマータイム オフセットを開始する月を指定します。有効値は January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November 、および December です。
<i>start-time</i>	サマータイム オフセットを開始する時刻を指定します。指定する形式は <i>hh:mm</i> です。
<i>end-week</i>	サマータイム オフセットを終了する週が、月の何番目の週であるかを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。
<i>end-day</i>	サマータイム オフセットを終了する曜日を指定します。有効値は Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday 、または Sunday です。
<i>end-month</i>	サマータイム オフセットを終了する月を指定します。有効値は January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November 、および December です。
<i>end-time</i>	サマータイム オフセットを終了する時刻を指定します。指定する形式は <i>hh:mm</i> です。
<i>offset-minutes</i>	クロックのオフセットを分単位で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 1440 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、サマータイムまたは夏時間のオフセットを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# clock summer-time PDT 1 Sunday March 02:00 1 Sunday November 02:00 60
```

次に、サマータイム オフセットを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# no clock summer-time
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックのサマータイム オフセット設定を表示します。

clock timezone

Coordinated Universal Time (UTC; 世界標準時) からのタイムゾーンオフセットを設定するには、**clock timezone** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock timezone *zone-name* *offset-hours* *offset-minutes*

no clock timezone

シンタックスの説明

<i>zone-name</i>	ゾーン名を指定します。ゾーン名は、タイムゾーンの略語 (PST、EST など) である 3 文字の文字列です。
<i>offset-hours</i>	UTC からのオフセット時間数を指定します。指定できる範囲は -23 ~ 23 です。
<i>offset-minutes</i>	UTC からのオフセット分数を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 59 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、UTC からのタイムゾーンオフセットを設定する例を示します。

```
switch# clock timezone EST 5 0
```

次に、タイムゾーンオフセットを削除する例を示します。

```
switch# no clock timezone
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックの時刻を表示します。

collect counter

フロー内のバイト数またはパケット数を非キー フィールドとして設定し、確認されたバイト数またはパケット数を Flexible NetFlow フロー レコード用に収集するには、**collect counter** コマンドを使用します。カウンタをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

collect counter {bytes [long] | packets [long]}

no collect counter {bytes [long] | packets [long]}

シンタックスの説明

bytes	フローで確認されるバイト数またはパケット数を非キー フィールドとして設定し、フローから合計バイト数を収集します。
long	(任意) 64 ビット カウンタを使用して、フローから合計バイト数を収集します。
packets	フローで確認されるバイト数を非キー フィールドとして設定し、フローから合計パケット数を収集します。

コマンドのデフォルト

このコマンドはデフォルトではイネーブルになっていません。

コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、フローからの合計バイト数を非キー フィールドとして収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect counter bytes
```

次に、64 ビット カウンタを使用して、フローからの合計バイト数を非キー フィールドとして収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect counter bytes long
```

次に、フローからの合計パケット数を非キー フィールドとして収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect counter packets
```

次に、64 ビット カウンタを使用して、フローからの合計パケット数を非キー フィールドとして収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect counter packets long
```

関連コマンド

コマンド	説明
collect counter	カウンタを非キー フィールドとして設定し、カウンタの値を収集します。
flow record	フロー レコードを作成します。
show flow record	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

collect timestamp sys-uptime

NetFlow フロー レコード用に TIMESTAMP SYS-UPTIME を収集するには、**collect timestamp sys-uptime** コマンドを使用します。収集をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
collect timestamp sys-uptime {first | last}
```

```
no collect timestamp sys-uptime {first | last}
```

シンタックスの説明

first	フローの最初のパケットが確認されたときの sys-uptime を非キー フィールドとして設定し、フローの最初のパケットが確認されたときの sys-uptime に基づいてタイムスタンプを収集します。
last	フローの最後のパケットが確認されたときの sys-uptime を非キー フィールドとして設定し、フローの一番最後のパケットが確認されたときの sys-uptime に基づいてタイムスタンプを収集します。

コマンドのデフォルト

このコマンドはデフォルトではイネーブルになっていません。

コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、フローの最初のパケットが確認されたときの **sys-uptime** の収集をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect timestamp sys-uptime first
```

次に、フローの最後のパケットが確認されたときの **sys-uptime** の収集をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect timestamp sys-uptime last
```


関連コマンド

コマンド	説明
flow record	フロー レコードを作成します。
show flow record	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

collect transport tcp flags

NetFlow フロー レコード用に Transmission Control Protocol (TCP) フラグを収集するには、**collect transport tcp flags** コマンドを使用します。収集をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

collect transport tcp flags

no collect transport tcp flags

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト このコマンドはデフォルトではイネーブルになっていません。

コマンド モード フロー レコード コンフィギュレーション

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、TCP フラグを収集する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# collect transport tcp flags
```

関連コマンド	コマンド	説明
	flow record	フロー レコードを作成します。
	show flow record	フロー レコードのステータスと統計情報を表示します。

configure terminal

CLI グローバル コンフィギュレーション モードのコンフィギュレーション コマンドにアクセスするには、**configure terminal** コマンドを使用します。

configure terminal

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン グローバル コンフィギュレーション モードで行った設定の変更は、実行コンフィギュレーション ファイルに保存されます。これらの変更がリブートおよび再起動後にも維持されるように永続的に保存するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用してスタートアップ コンフィギュレーション ファイルにコピーする必要があります。

例 次に、CLI グローバル コンフィギュレーション モードのコンフィギュレーション コマンドにアクセスする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ここで	現在のコンフィギュレーション モードのコンテキストを表示します。
	pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。
	copy run start	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーすることで、リブートおよび再起動後にも維持されるよう永続的に保存します。

connect

vCenter との接続を開始するには、**connect** コマンドを使用します。vCenter との接続を切断するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

connect

no connect

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト 接続していません。

コマンド モード SVS 接続コンフィギュレーション (config-svs-conn)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン vCenter への接続時に、その接続に対してユーザ名とパスワードが設定されていない場合は、入力を求められます。

アクティブな接続は一度に 1 つだけです。以前に定義された接続がアップしている場合は、エラーメッセージが表示され、**no connect** を入力して以前の接続を閉じるまで、**connect** コマンドは拒否されます。

例 次に、vCenter に接続する例を示します。

```
switch(config#) svs connection vcWest
switch(config-svs-conn#) protocol vmware-vim
switch(config-svs-conn#) remote hostname vcMain
switch(config-svs-conn#) vmware dvs datacenter-name HamiltonDC
switch(config-svs-conn#) connect
```

次に、vCenter との接続を切断する例を示します。

```
switch(config#) svs connection vcWest
switch(config-svs-conn#) no connect
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show svs connections	Cisco Nexus 1000V に対する現在の接続を表示します。

control vlan

制御 VLAN を Cisco Nexus 1000V ドメインに割り当てるには、**control vlan** コマンドを使用します。制御 VLAN を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

control vlan *number*

no control vlan

シンタックスの説明	<i>number</i>	制御 VLAN 番号を指定します。
-----------	---------------	-------------------

デフォルト	なし
-------	----

コマンド モード	SVS ドメイン コンフィギュレーション (config-svs-domain)
----------	---

サポートされるユーザの役割	network-admin
---------------	---------------

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	新しく作成された VLAN は、レイヤ 2 ポートが割り当てられるまで使用されません。 内部的に割り当てられた VLAN の VLAN ID を入力した場合、CLI はエラー メッセージを返します。
------------	--

例	次に、制御 VLAN 70 をドメイン ID 32 に設定する例を示します。
---	--

```
switch# config t
switch(config)# svs-domain
switch(config-svs-domain)# domain id 32
switch(config-svs-domain)# control vlan 70
switch(config-svs-domain)#
```

次に、制御 VLAN 70 をドメイン ID 32 から削除する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# svs-domain
switch(config-svs-domain)# domain id 32
switch(config-svs-domain)# no control vlan 70
switch(config-svs-domain)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show vlan-id	指定した VLAN の設定を表示します。
svs-domain	ドメインを作成し、CLI SVS ドメイン コンフィギュレーション モードを開始します。
domain id	ドメイン ID をドメインに割り当てます。
packet vlan	パケット VLAN をドメインに割り当てます。
show svs-domain	ドメインの設定を表示します。

copy

コピー元からコピー先へとファイルをコピーするには、**copy** コマンドを使用します。

copy *source-url destination-url*

シンタックスの説明

<i>source-url</i>	コピーされる元のファイルまたはディレクトリの場所の URL（または変数）を指定します。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー元がローカルの場合とリモート場合があります。
<i>destination-url</i>	コピーしたファイルまたはディレクトリのコピー先 URL（または変数）を指定します。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー先がローカルの場合とリモート場合があります。

コピー元とコピー先の URL の形式は、ファイルまたはディレクトリの場所によって異なります。Cisco NX-OS ファイル システムの構文 (*filesystem:[/directory][/filename]*) に従ったディレクトリまたはファイル名の CLI 変数を入力できます。

次の表は、ファイル システムのタイプごとの URL プレフィクス キーワードのリストです。URL プレフィクス キーワードを指定しない場合、デバイスは現在のディレクトリでファイルを検索します。

表 1 に、ブートフラッシュおよび書き込み可能なリモート ストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワードの一覧を示します。

表 1 ストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
bootflash: <i>[/module/]</i>	ブートフラッシュ メモリのコピー元またはコピー先の URL を指定します。 <i>module</i> 引数の値は、 sup-active 、 sup-local 、 sup-remote 、または sup-standby です。
ftp:	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 ftp: <i>[/server][/path]/filename</i>
scp:	SSH をサポートし、SCP を使用してファイルのコピーを受け入れるネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 scp: <i>[/[username@]server][/path]/filename</i>
sftp:	SSH FTP (SFTP) ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 sftp: <i>[/[username@]server][/path]/filename</i>
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文は次のとおりです。 tftp: <i>[/server[:port]][/path]/filename</i>

表 2 は、書き込み不可のファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。

表 2 特殊ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
core:	コア ファイルのローカル メモリを指定します。コア ファイルを core: ファイル システムからコピーできます。
debug:	デバッグ ファイルのローカル メモリを指定します。デバッグ ファイルを debug: ファイル システムからコピーできます。
log:	ログ ファイルのローカル メモリを指定します。ログ ファイルを log: ファイル システムからコピーできます。
system:	ローカル システム メモリを指定します。実行コンフィギュレーションを system: ファイル システムへ、または system: ファイル システムからコピーできます。 system: ファイル システムの使用は、コマンドで running-config ファイルを参照するときは任意です。
volatile:	ローカル揮発性メモリを指定します。 volatile: ファイル システムへ、または volatile: ファイル システムからファイルをコピーできます。 volatile: メモリのファイルはすべて、物理デバイスがリロードすると失われます。

デフォルト

コピー先ファイルのデフォルト名はコピー元ファイル名です。

コマンド モード

任意

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コピー プロセス全体は、ネットワーク条件やファイルのサイズに応じて数分間かかる場合があります。また、それぞれのプロトコルおよびネットワークによっても異なります。

ファイル システムの URL プレフィクス キーワード (**bootflash** など) の後にはコロン (:) が必要です。

ftp:、**scp:**、**sftp:**、および **tftp:** の URL 構文では、IP アドレスまたはホスト名でサーバを表します。

例

次に、同じディレクトリ内にファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 file2
```

次に、別のディレクトリにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 my_files:file2
```


次に、別のスーパーバイザ モジュールにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 bootflash://sup-remote/file1.bak
```

次に、リモート サーバからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy scp://10.10.1.1/image-file.bin bootflash:image-file.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
cli var name	セッションの CLI 変数を設定します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
move	ファイルを移動します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

copy running-config startup-config

実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーするには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

copy running-config startup-config

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード 任意

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

実行コンフィギュレーションでの設定の変更を永続的メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションに保存するには、このコマンドを使用します。デバイスのリロードまたは切り替えが発生すると、保存されている設定が適用されます。

例

次に、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存する例を示します。

```
switch# copy running-config startup-config
[#####] 100%
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。
show running-config diff	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。
write erase	永続的メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションを消去します。